

太山寺

太山寺は天台宗で、「播州太山寺縁起」には藤原鎌足の発願でその長男の定恵が開基となり、孫の宇合が堂塔伽藍を造営したと伝えられています。国宝に指定されている本堂には海中から出現したという薬師如来が安置されています。昔は41坊もありましたが、現在はわずかに5坊になっています。

太山寺の裏手の広大な森には、原生林が残っています。この原生林は、暖地性の常緑照葉樹の極相林で、山の斜面の下部はシイを中心とした林で、上部の尾根・崖地はウバメガシ林が発達しています。

太山寺の原生林

・山の斜面のシイ林

高木層にはコジイ(ツブラジイ)が優占しています。コジイ以外の高木、亜高木には、アラカシ・ナナメノキ・イスノキ・ヒメユズリハ・カゴノキ・ヤブツバキなどがみられます。低木相にはネズミモチ・ヒサカキ・アオキ・ムラサキシキブ・ヤブニッケイ・カナメモチ・カクレミノ・サカキ・モッコクなどがみられます。場所によっては、南方系のタイミンタチバナ・イスノキ・トキワガキ・カギカズラが見受けられるようです。草本層は貧弱で、昼でも薄暗いため、シダ類が優先しているところがあります。

(参考資料①より:この太山寺のシイ林の植生は、コジイーカナメモチ群集、タイミンタチバナ変群集といわれるようで、主要分布地域は淡路島南部や大阪南部、和歌山県北部で、温度的にみてコジイーカナメモチ群集分布域の最も温暖な所にある。)

・山の上部の尾根・崖地のウバメガシ林

ウバメガシの優占で特徴づけられる林です。ウバメガシ以外には、アラカシ・カナメモチ・ヤマモモ・ヒメユズリハなどがあります。低木層にはモチツツジ・コバノミツバツツジ・ネジキ・ナツハゼ・ウンゼンツツジなどのツツジ類が多く、林床にはコシダ・ヒトツバ・イタビカズラ・テイカカズラなどが生育しています。

(参考資料①より:ウバメガシ群落は明石市柿本神社、西区如意寺、海神社、須磨区厄除八幡宮、鉢伏山、須磨寺および西区太山寺に分布しているが、いずれも尾根など乾燥の激しい土壌条件下にある。本群落のうち太山寺のウバメガシ林は自然性の高いものでやや内陸地域の乾燥の激しい尾根や急傾斜地に成立する土地的極相と考えられ、組成的にも他のものと比較してやや異質である。)

太山寺シイ林の主な植物(参考資料②より)

高木、亜高木	シイ(コジイ)・アラカシ・ナナメノキ・イスノキ・ヒメユズリハ・カゴノキ・ヤブツバキ
低木	ネズミモチ・ヒサカキ・クロバイ・コバノガマズミ・アオキ・タイミンタチバナ・ムラサキシキブ・ヤブニッケイ・ヤマハゼ・モチノキ・カナメモチ・カクレミノ
下草	ヤブコウジ・テイカカズラ・ネザサ・フユイチゴ
	ナガバジャノヒゲ・チヂミザサ・ササクサ
シダ	ホソバカナワラビ・ベニシダ・マルバベニシダ・トウゴクシダ・ミヤマイタチシダ・イノデ・ヒメイタチシダ・マメヅタ・オオイタチシダ・ミゾシダ・コバノカナワラビ・シケシダ・ウラジロ・コシダ・キジノオシダ・ハシゴシダ・オオベニシダ・シシガシラ・トラノオシダ・ノキシノブ・オオバノイノモトソウ・サイゴクベニシダ・ウチワゴケ

参考資料①、「神戸の植生」(中西哲, 服部保, 武田義明著/改訂版/神戸市環境局/2000)

参考資料②、「神戸のシダ」(白岩 卓巳著/神戸市立教育研究所/1980/神戸の自然3)

原生林の特徴

- 1、多種類の樹木と多くの生物が共生している。
 - ・ 原生林には同じ種類の木は1%に数本しか存在しない、その数本も離ればなれになっているので、病虫害が発生しても伝染しにくい。(人工林では同種の木が密集し絶滅の可能性あり)
 - ・ 原生林にはシダ類や草花などが共生し密集している。
 - ・ 木の実や果実が豊富にあり、多くの昆虫、鳥、動物が共生し、森内が賑やか。
 - ・ このような原生林は沢山の樹木の周りに強固な生態系を形づくっている。
- 2、豊かな土をつくり、保水能力に優れている。
 - ・ 原生林は落葉樹が多く、動物も多いので落葉や動物のフンや死体が微生物によって分解されます。その結果、栄養分豊かな土が作られ、それが木の成長のために使われるという循環によって生態系が維持される。又、豊かな土や葉が巨大なダム働きをするため保水力が優れている。
- 3、光合成の能力と空気浄化の力が強い。
 - ・ 原生林には葉の面積が大きな広葉樹が多いので二酸化炭素の吸収力、酸素の浄化能力が人工林と比べてはるかに優れている。
- 4、人がむやみに介入するとダメになる。
 - ・ 原生林は人工林の反対だと考えると「人手を掛けるとダメになる」と言うことになります。しかし、先住民族のように人手を掛けてもダメにならないこともあります。彼らは自分たちも生態系そのものであり、生態系がダメになると自分たちもダメになることを知っているからです。この原生林に人がむやみに介入し食物連鎖を断ち切ると生態系全体が破壊してしまいます。二度と元の姿に戻せません。

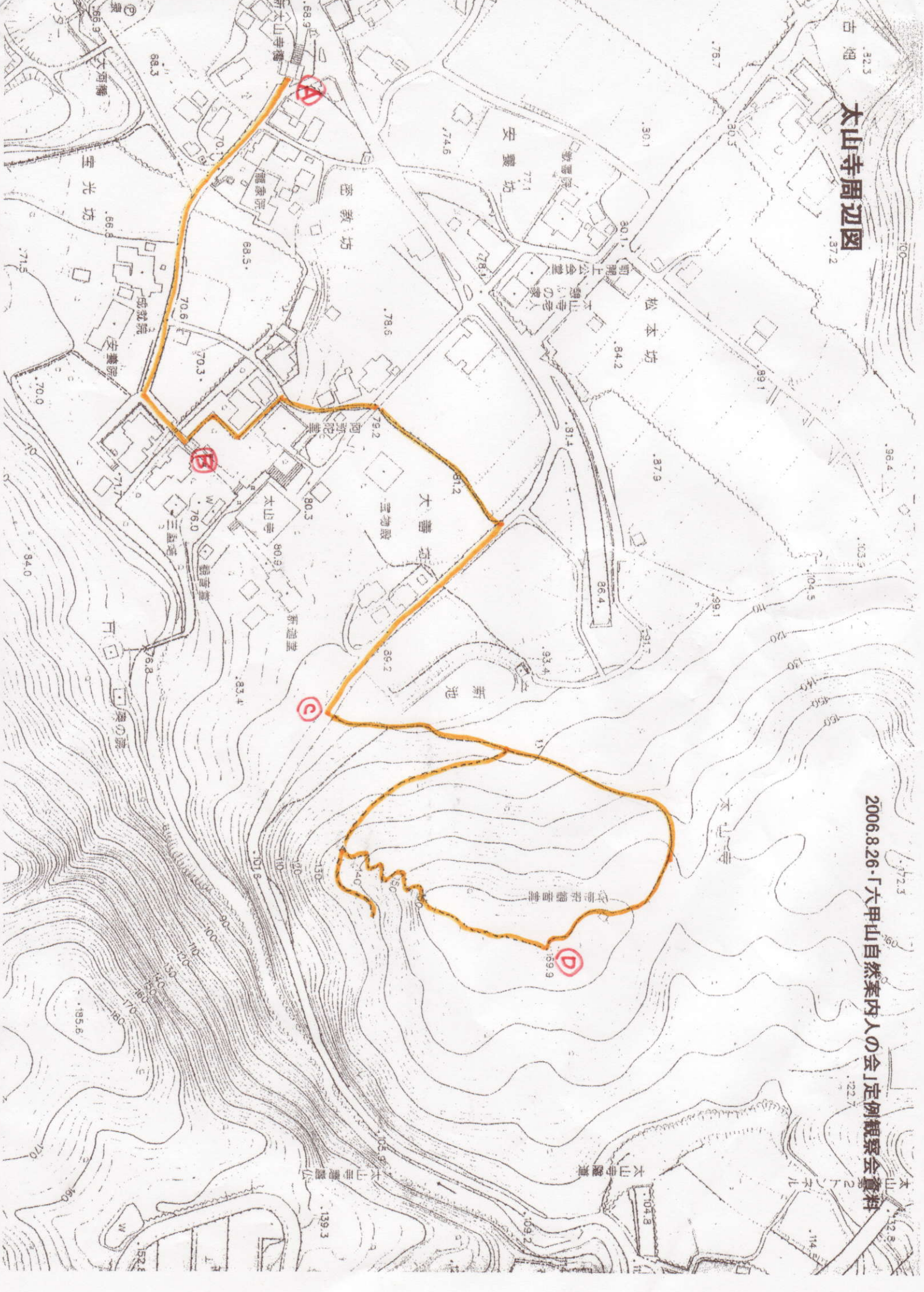
原生林の破壊の実態。

- 1、今、原生林がどんどん失われています。
 - ・ 乱開発や過剰伐採のため、すでに世界の原生林の80%が失われました。緑豊かに見えるヨーロッパでは原生林はすでに全滅し、現存するのは全部人工林です。アメリカでも原生林は15%しか残っていない。
- 2、原生林がなくなると。
 - ・ 豊かな土が流される。
 - ・ 水を保つ力がなくなって水が枯渇する。
 - ・ 二酸化炭素を吸収できなくなって地球温暖化が進む。

森林破壊の原因。

- 1、先進国による商業伐採と乱開発。
 - ・ 建築用資材として、紙を作るための商業伐採。
 - ・ 工場建設、リゾート開発、換金作物栽培のための乱開発によって森林破壊がますます加速しています。
- 2、無計画に行われる焼畑農業。
 - ・ 昔の人はある一定の区画を焼いて農地とし、数年耕作をした後、今度は隣の区画を焼いて農地とし、そして数年後に又その隣を焼き・・・元に戻ってきたときには見事に森林は再生しているという計画的な焼畑農業でした。しかし、南米や東南アジアでは貧しい人達が森林へ追いやられ、生きていくためには伝統的の焼畑農業の知識なしに次々と森林を焼き払っています。

太山寺周辺図



2006.8.26・「六甲山自然案内人の会」定例観察会資料

太山寺
2.1.17.1
114.3
112.8

日本列島を縦断する脊梁山脈は、対立する裏日本(日本海側)の多雪環境と表日本(太平洋側)の寡雪環境を成立させ、さらに、暖温帯系生物分布の一大障壁となって日本海側と太平洋側の生物相を分断する(図1)。

しかし、中部地方では3000mを越える中央分水界も近畿地方では急に低くなり、特に日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海へ流れる加古川の分水界にあたる兵庫県氷上郡氷上町石生では、その海拔は100mに達せず、わずか95.4mとなる。もし海水面が100m上昇すると、本州はここで二分されてしまう。両河川をつなぐこの低地帯は交流拠点あるいは街道としてよく利用され、現在は国道175号線が走る。藤田和夫氏はこの低地帯を「氷上回廊」と命名したが、この回廊には人間だけでなく多くの生物の移動通路として重要な役割を果たしてきた。加古川-由良川で展開された生物の分布拡大の歴史を辿ろう。

今から2万年ほど前の日本列島は最終氷期の最寒冷期にあっており、現在より7℃も気温は下がり、海水面の約100m低下によって、瀬戸内海は陸化していた。現在なら2000m近い山岳地帯でないと見られない亜高山針葉樹林が山地部に広がり、低地には夏緑林(ブナ林)が成立していた。シイ、カシ、クス、ツバキなどの常緑広葉樹林より構成される照葉樹林は、兵庫県には存在せず、太平洋側沿岸の九州南端、足摺、室戸、潮岬、伊豆などにかろうじて避難していた。1万年前以降徐々に暖かくなると、海面上昇と共に各避難地(レフュージア)より照葉樹林構成種は一斉に海岸沿いに北上を開始した。兵庫県下への分布拡大は、潮岬に始まり紀伊水道、紀淡海峡、大阪湾沿岸を経て兵庫県東南部に到達し、その後沿岸から猪名川、武庫川、加古川など河川に沿って内陸部へと進んだ。内陸部や山地では低い気温のために照葉樹林構成種の分布拡大は阻止されるが、内陸部へも侵入でき、さらに太平洋側より中央分水界を越えて日本海側に到達できる通路が国内唯一存在する。それが加古川と由良川を結ぶ氷上回廊である。加古川沿いに上がってきた種が由良川に達し、そのまま由良川を下ると、温暖な若狭湾にいたる。



図1 日本の中央分水界

服部保先生の調べられたカナメモチ、ヤマモモの分布を見ましょう。

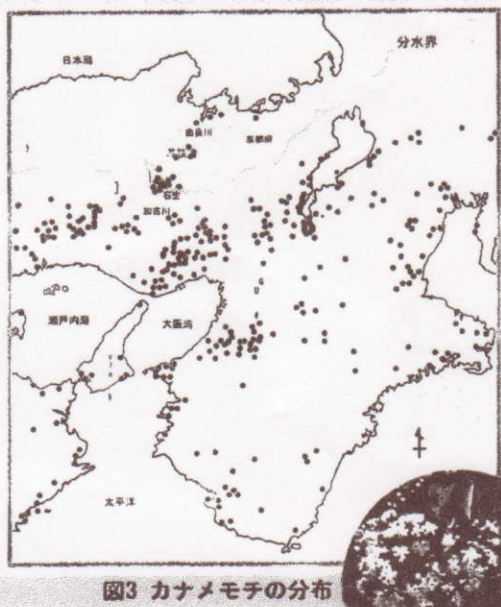


図3 カナメモチの分布

カナメモチの分布図(図3)を見ると、実に見事に氷上回廊に沿って日本海側に入り、若狭湾に達している。

ヤマモモは隔離分布(図4)している、現在よりも気温の高い時期が存在し連続分布していたものが、その後の気温低下期に氷上回廊を通して若



図4 ヤマモモの分布

狭湾に到達していたであろうヤマモモは、連続していた分布が後退し、若狭湾に置き去りにされたように見えるので、気温変化の「置き去り効果」と呼ばれている。

皆さん、いくつ読めますか？

昔から知られている樹木や中国から渡来した樹木には漢字名があります。

- ① 榕 () ② 榧 () ③ 榉 ()
④ 槐 () ⑤ 櫟 () ⑥ 椰 ()
⑦ 楮 () ⑧ 要藜 () ⑨ 木槿 ()
⑩ 木通 () ⑪ 木瓜 () ⑫ 黄楊 ()
⑬ 辛夷 () ⑭ 茱萸 () ⑮ 郁子 ()
⑯ 奏皮 () ⑰ 冬着 () ⑱ 木天蓼 ()
⑲ 白膠木 () ⑳ 金雀枝 ()

- 公孫樹 () 夜叉五倍子 () 馬刀葉椎 ()
木斛 () 木大角豆 () 連翹 ()
翌檜 () 落羽松 () 令法 ()
折骨木 () 小臭木 () 無患子 ()
榿 () 栴檀 () 油瀝青 ()
躑躅 () 蛇結茨 () 姫神 ()
七竈 () 鹿子の木 () 藪肉桂 ()
招霊の木 () 角榛 () 夏黄櫨 ()